

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1191900065		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	戸田ケアコミュニティそよ風		
所在地	埼玉県戸田市水川町2-16-23		
自己評価作成日	令和4年10月30日	評価結果市町村受理日	令和5年6月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 埼玉県介護支援専門員協会		
所在地	埼玉県さいたま市浦和区仲町2-13-8 ほまれ会館3階		
訪問調査日	令和5年4月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設後14年が経過しております。3年前よりコロナウイルスの蔓延によりご入居者様にはご家族との面会や外出の制限、家族会のイベントの中止など変わらずストレスの多い生活となっております。ご入居者様には、施設内で出来る事をして頂き、館内散歩や指導員によるリハビリ体操を取り入れ、ゲームや歌で気分転換を図っております。ベランダ越しのお花見やお誕生会、お節句などホーム内で出来る事を中心に皆様のストレスを少しでも解消できるよう務めております。家事作業を中心に役割を継続できる様対応しております。また、職員は感染症予防のために徹底した消毒を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム、デイサービス、有料老人ホーム、保育所が同一敷地内に併設している複合施設です。災害時には地域の避難場所にもなっています。
 コロナ感染予防の観点から、今まで行ってきた活動ができなくなり中止を余儀なくされ、また、施設内のコロナ発生とインフルエンザ感染により職員は、コロナ拡大防止と感染予防対策に追われ大変な苦勞をされました。そんな状況の中で職員は、利用者が外出出来なくても施設内で楽しんで安心して穏やかな日常生活が送っていただけるような環境作りを心掛けた支援を、日々話し合い、検討し試行錯誤しながら努力して実施されています。今後は、コロナも5類に移行し面会や外出、散歩、買い物など利用者や家族が、楽しんで参加し笑顔がみられ充実した日常生活が送っていただけるよう自立に向けた支援の提供を予定されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔と安心をテーマに掲げているが、全員の職員共有は出来ていない。	スタッフルームに掲げているが、職員の唱和もなく、新しい職員や勤務形態が異なる職員も多いため一部の職員のみで理念を理解し、理念に沿った支援を行っている。	理念はケアをする際の規範となるものであり、朝礼や会議等の様々な場面で繰り返し伝え、全職員が「あったか介護、自立支援」の理念を理解して共有し実践につなげることを希望します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中、外出の制限があり地域との関わり合いも希薄の物となっている。	コロナ感染予防のため活動を中止していた。5類に移行し始めてからは、近くに散歩や花見に出かけるようになった。町会には加入しているが、コロナの影響もあり日常的に地域とのつながりが少ない。	今後は、地域とのつながりを再スタートし、少しずつ利用者の様子を見ながら、散歩、買い物等の小さな外出を増やしていくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記同様、運営推進会議などの中止もあり地域との関わりも減少している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の中、運営推進会議の開催は出来ていない。ご家族、行政への状況報告にとどまっている。	コロナのため開催は行っていない。来月(5月)から開催を予定している。今まで参加していた所には「そよ風たより」や施設の情報などを送付していた。	各方面への参加を呼びかけ、地域の方々にも理解が得られるようサービスについての取り組みなどを説明し話し合せて意見を得てサービス向上に活かせる事を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	以前に比べると関係性は希薄となっている。市の担当者には相談できる関係性は継続できている。	市の担当者とはメールで連絡を取り合っている。施設で感染症が発生した時などは、対応の仕方などを相談をして連絡を取り合い相談や報告が行われています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご家族了承の下(同意書)入口、居室の外窓の施錠を行っている。事業所単位で委員会を設置しており、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	施設の入り口にテンキーがついている。ハード面で居室には、ベランダの窓に開放制限があり外に出ることができない。研修を実施して、日々のケアでその都度話し合い身体拘束のないケアに取り組んでいる。	ハード面の関係上、玄関の施錠やベランダの窓は変更できないため入所時に説明をして「施錠同意書」をいただいている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修を終了しているが、他職員は研修を行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	「ご利用のしおり」等を利用し、契約書・重要事項説明書の説明を分かり易く行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「苦情に関するお知らせ」をフロア内に掲示案内をしている。運営推進会議、アンケートの実施を行いご家族様のご要望を聴き業務改善に活かしている。時には面会時等その都度ご相談に応じている。	家族にアンケート実施、結果をもとに話し合い改善に向けて努力している。コロナで家族の要望が増えた。窓口を一本化して対応している。少しずつ面会の機会も増えてきている。面会時にも意見を聞き反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今年度より会議を定期的で開催し、職員の意見、提案を受け入れるようにしている。業務改善等に取り組んでいる。	毎月1回議題を決めて、研修を実施している。その時に意見を出して話し合い検討した結果を、管理者が責任者に伝えて改善に向けて話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の勤務予定、実績を把握している。本人の意見や家庭環境等も含め、随時聞く機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の研修はコロナ禍の中ズームを利用し行っていて、事業所内では研修を定期的に受けることが義務付けられていて行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の中、活動も行えていない状況ではあるが、個別に訪問したり、電話でのやり取りを行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご自宅に訪問、または来所頂いたり、担当のケアマネやサービス事業者より直接情報を頂き、安心して過ごして頂ける様関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、ご自宅へ訪問や来所頂き、ご本人とは別室、または別日を設けご家族様との面談を行っている。サービスが適切に提供できる様、随時、電話等を利用しお問い合わせや相談なども聴く様にして不安の緩和に努めている。入居直後も同様に電話等で様子をお話している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの説明を行っている。他のサービスを求められたら施設等に案内もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居されてからご本人の日常を観察し“出来る事”の把握に努めている。ご本人様の状態に合わせ役割を提供している。共同生活の中で孤立しないよう職員が仲立ちをするよう務めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の中面会やご家族との外出も制限があるが、コロナ流行の具合をみて面会を緩和させて頂いている。電話で直接話して頂いたり、ホーム内での様子を電話や文書で出来るだけお伝え出来るよう工夫をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居者様が高齢となりなじみの場所が少なくなっている。それに加えコロナ禍によりこれまでの支援が出来なくなっている。	コロナのため今まで行っていた事が出来なくなった。親戚の方からの手紙を職員が読み、電話をかけたりにして少なくなりつつある関係継続への支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う合わないを職員が把握し、散歩や食事席等の配置をしている。ご入居様の間に職員が入り作業や余暇時間を通じご入居様同士関わりが出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用中からご家族様との関係を大切にしている。サービスが終了してもご家族様に電話や来館で相談に応じるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症が進行しご自身の意向を口にできない方が増えている。これまでのホーム内での言動やご家族様のご意見などを頂戴し、ご本人の意向に沿えるよう担当者会議で検討している。	意向が伝えられない利用者には、世間話をしながら日ごろの言動などを把握し、ご家族の意向を聞きながらそれに沿った検討が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査でご本人、ご家族より情報を頂く。入居後もご本人との会話の中でこれまでの生活を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来るだけ動いて頂ける様に個別にお声掛けを行っている。掃除、洗濯、調理など部分的だけでも参加できる様支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の参加は頂けていない。職員も少なくなり、文書でご家族・職員で意見の交換を行っている。また、医療面から看護師にも助言を求めている。	計画書作成に際し、一堂に会した担当者会議の開催が困難なため各担当者に「照介」を出して「担当者会議録」にまとめている。	R3年度の改正で、計画書1表に、「本人家族の意向を踏まえた課題分析結果」の記入が必要である。2表に、セルフケアを入れることなどを踏まえて自立に向けた計画書の作成を望みます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状況を個別に記録し、朝夕の申し送り、また、申し送りノートを利用し職員間での情報の共有化を図り、プランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況に合わせ、通院や市役所の手続き等の介助を行っている。ご本人の気に入った買い物の代行など、ご家族にご了解を得て行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の中外出など制限があり出来ない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院から2週間に1度往診に来て頂いている。入居前にご家族様へお話をし納得して頂いている。臨時の受診や検査などは職員が同行している。	入所時に訪問診療の説明をして書面で取り決めをしていますが、今までのかかりつけ医への受診を希望された場合も柔軟に対応されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師による健康管理を受けている。その都度、入居者様の健康状態について報告し相談や助言を受けている。また、訪問診療先看護師を通じ医師との連携を取り情報の共有に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は管理者または計画作成担当者がご家族様と共に病院の担当医師、看護スタッフを通じ入院中の状態の把握、退院のめど等を聴取する。退院が決まると計画作成担当者が再度、病棟看護師より電話で実態調査を行っている。協力病院を中心に関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前より終末期の介護について説明をしている。また、認知症が進行してきた方、病状が悪化した方についてはご家族に随時相談をさせて頂いている。医師や看護師からご家族と今後について話し合いを持つ事もある。	重度化や終末期の対応については、入所時に説明を行い書面で取り交わしています。医師から家族に状態などの説明をして家族と話し合いが行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルは出来ている。職員に向けた研修は行っている。ご家族にも入居時にご説明をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体で消防訓練、地震、水害などの自然災害の避難訓練を行っている。	施設全体で、消防署立会いの下、火災、地震、水害など夜間を想定した訓練が実施されていますが、訓練にとどまらず全職員が火災、災害時の対応ができるよう周知徹底が必要と思われます。地域の避難場所になっているため備蓄なども行っています。	施設が2階にあり、他の施設も同階にあるため、避難経路など避難時には困難が予想される。消防署からは、まずベランダに避難するよう指導されたとの事であるが、円滑に適切な対応がとれるように努力されることを望みます。

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけはグループホーム会議等で話し合ったり、日々の業務申し送り等で注意を呼び掛け、ご利用者様に失礼の無い様心がけている。不適切な声かけがあった場合にはその都度注意している。記録では他の入居者様はアルファベットを使用して記録をしている。	定例会議で個人の尊厳と声掛けや対応などについて話し合い、日々の業務の中でもその都度職員に注意を呼び掛けて、利用者の一人一人の思いを尊重したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かをお誘いする時は必ず、ご本人の意思確認を行っている。毎日の水分補給時に好みの飲み物を選択していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課とは別に入居者様の日々の体調を考慮して生活をして頂いている。突然の買い物希望にも出来るだけ応じるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設内で髪染めをしたり、お化粧品をしたりしておしゃれを楽しんで頂ける様にしている。継続的にご本人の希望される化粧品を買いに出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ほぼ毎日のように3回の食事の片付けをして頂いている。時には盛り付けを手伝って頂く事もある。出来ない方にはテーブル拭き等出来る事をして頂いている。月に1回は特別食が提供されている。	毎月1回「特別食」を注文している。食事の準備や片づけは利用者が参加して行っている。また、不定期であるが、余った食材を活用して利用者と一緒におやつを作り楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量、水分の摂取量の記録を行っている。好みのお茶や飲み物を提供している。嚥下状態が低下している方には、トロミとゼリーの提供をしている。食事等の摂取量は、随時主治医に相談し、助言を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い口腔ケアを行っている。ご自分でできる方はご自身でして頂き、介助の必要な方にはその方の状態に合わせて介助を行っている。夕食後、義歯洗浄剤を使用し洗浄を行っている。必要に応じ訪問歯科医に受診をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄のパターンを把握している。その他、ご本人の合図を見逃さない様にしてトイレ誘導を行っている。夜間もその方の状態に合わせて、排泄の介助を行っている。随時職員の話聞き対応を検討している。	利用者の排泄パターンを把握し、一人一人に合わせた排泄介助が行われています。状態に合わせて出来る限り自立に向けた支援を心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用いて排便の状況を把握している。便秘の方には水分を多く取って頂く。散歩や体操で運動をして頂く様促している。排便状況を主治医に報告して医師の指示の下、便秘薬の服薬、調整をしている。朝食時ヨーグルトを召し上がって頂くようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の開始時間は決めているが、ご本人の希望に合わせてゆっくりと入浴して頂ける様にしている。入浴剤を使用したり、季節に合わせて菖蒲湯やゆず湯にも入浴して頂いている。	本人の希望する時間に合わせて入浴ができるよう柔軟に対応しています。季節感が出るよう様々な工夫をして支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は入居者様個々で決めて頂いている。眠くなるまでリビングで過ごされていたり、ご自分で決められた時間で就寝されている。夕食後、リビングや自室でテレビを見たり、読書をされたりしてご自身の時間を過ごされている方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	契約の薬局が入り、薬の管理をしている。疑問など電話や来館時に薬剤師に聞くようにしている。1回の服薬に3回のチェックを行い誤薬等の服薬事故を防止するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割りをお一人お一人持って頂けるようプランに挙げ支援をしている。趣味などもご家族にご相談の上生活の中に取り入れる様工夫をしている。気分転換には館内散歩、ゲーム等を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により外出にも制限があり希望に沿うことがままならなくなっているが、ご家族と外出される方も出てきている。	コロナ禍のため感染予防対策を行いながらの外出支援は、意向に沿うことが出来ない状態であったが、コロナが緩和されつつあるため家族の協力を得ながら外出をする利用者も出てきている。	数年間外出しなかった利用者の外出は、利用者の状態を見ながら無理の無いよう、家族の支援を得ながら外出ができるよう支援して利用者の楽しみの一つとなることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に小銭を所持することは可能としている。外出する事が少なくなり、買い物も職員の代行となっている。		
51		○電話や手紙の支援	予めご家族に了承を得て制限を設けていない。ご本人の希望時電話番号を押すなどの支援、又は電話の取次ぎを行っている。暑中見舞い、年賀状など書ける方にはお名前などを書いて頂いたり、代筆などの支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに壁面の装飾を変えたり、入居者の方々に作って頂いている。季節の行事も取り入れている。室温もエアコンをこまめに調整し寒かったり、暑かったりしない様になっている。	南向きのリビングは、日当たりも良く明るい。適温に調節されており居心地の良い空間となっている。壁には、利用者が制作した季節の飾り物や写真が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングテーブル他、ソファも用意して気の合った者同士会話が楽しめる様にしている。ソファも一人掛けのものもあり一人で過ごせるような配置にしてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具などは自宅で使用されていたものを持参して頂くよう促している。ご自宅での生活様式を出来るだけ変えない様にして頂いている。	自宅で使用していたダンスや椅子が置かれて、家族の写真や花が飾ってありゆったりと過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様のお身体の状態、状況を随時把握し過剰な介護が行われない様にしている。安全に過ごして頂ける様環境整備をしている。		